

附属校のNEWS

立命館中学校・高等学校

スーパーサイエンスハイスクール中間評価において、立命館高校が最高評価を獲得

3月7日(水)、文部科学省はスーパーサイエンスハイスクール(以下、SSH)平成27年度指定校・25校の中間評価結果を発表、立命館高校など8校が最高評価を獲得しました。文部科学省は、将来の国際的な科学技術系人材の育成を図るため、科学技術・理科・数学教育に関する研究開発を行う高校などをSSHに指定し、理科・数学に重点を置いたカリキュラムの開発や大学などとの連携による先進的な理数系教育を実施しています。立命館高校は、国際共同研究や海外との情報交流、JSSF開催などの“海外とのつながりや深まり”を目的とした国際的な科学教育の推進に成果を上げていることなどが評価されました。

立命館慶祥中学校・高等学校

全国高校総体(インターハイ)女子4×100mリレーで陸上競技部が初優勝!!

8月4日(土)、全国高校総体(インターハイ)陸上・女子4×100mリレー決勝が、三重交通Gスポーツの杜伊勢陸上競技場で行なわれ、立命館慶祥高校陸上競技部が45秒68で初優勝を果たしました。第1走者・吉田梨緒さん(3年)が好スタート、第2走者・臼井文音さん(3年)、第3走者・石堂陽奈さん(1年)とバトンを渡すことにリードを広げ、アンカー・松田奈夏さん(1年)がそのままゴールに飛び込みました。個人100mで入賞した臼井さん・石堂さんを中心に、仲間を信じる力で結束を高め、悲願の初優勝に輝きました。



立命館守山中学校・高等学校

高校Sci-Tech部
ロボカップジュニア
世界大会競技部門で優勝!!

6月17日(日)から5日間、カナダで開催のロボカップジュニア世界大会サッカー競技に高校Sci-Tech部の4名が出場、世界22カ国・地域から参加した28チームと競いました。競技部門では、初出場で7戦全勝の完全優勝を果たしました。競技に加え、プレゼンテーションや研究成果発表を含めた評価で競い合う総合部門でも、見事準優勝に輝きました。



立命館宇治中学校・高等学校

岡田恵里佳さんが
アジアカップ香港ジュニア
柔道大会で優勝!!

7月15日(日)、アジアカップ香港ジュニア柔道大会に、57kg級日本代表として立命館宇治高校2年・岡田恵里佳さんが出場しました。決勝戦では、昨年の世界カデ柔道選手権大会金メダリストの韓国選手と対戦、延長に及ぶ熱戦を制し、全試合一本勝ちで見事優勝しました。岡田さんは8月11日(土・祝)、三重県津市で開催された全国高校総体(インターハイ)にも京都代表として出場、見事優勝を果たしました。



立命館小学校

榎木有紀乃さんが
「第21回全国児童生徒地図優秀作品展」
で国土交通大臣賞受賞!!

1月4日(木)、「第21回全国児童生徒地図優秀作品展」国土交通大臣賞・文部科学大臣賞の選考結果が発表され、榎木有紀乃さん(当時小2)が最優秀賞にあたる「国土交通大臣賞」を受賞しました。町に住む一人ひとりを見つめ、みんなを災害や犯罪から守りたいという榎木さんの強い思いが伝わってくるこの地図は、同作品展で高い評価を受けました。



ご寄付のお礼と ご報告



Donors Newsletter 2018

BOOKS FOR BOOKS ～立命館の本活～

読み終えた本の買取額を寄付金として活用し、新しい図書の購入に役立てる古本募金活動を2013年度より実施しています。

実績 252,422冊 (5,137,205円) 5,044名 2013年4月～2018年7月末

●活用事例

2013年10月	立命館小学校	1～6年生の必読書(43冊)
2014年8月	立命館大学	衣笠・BKC図書館 英語多読本・日本語学習教材(307冊)
2015年2月	立命館小学校	児童たちからリクエストを募り選定した図書(34冊)
2017年3月	立命館大学	OIC図書館 学生アンケートを募り選定した図書(470冊)
2018年3月	立命館小学校	児童たちからリクエストを募り選定した図書(31冊)

なお、購入された本には、「古本募金により集まった寄付で購入した」ことが分かるシールを貼付。手に取った学生・生徒・児童たちに、ご支援いただいた方々の想いが少しでも届いてほしいという願いを込めています。



立命館のグローバル戦略

Global strategy of Ritsumeikan

フランス [パリ]

2017年7月、ル・コルドン・ブルー*と教学提携に関する協定を締結。国内の高等教育機関とル・コルドン・ブルーによる本格的な協定締結は日本初。

※1895年パリに創立し、世界20カ国に35校余を展開するカリナリーアーツとホスピタリティの教育機関



中国 [大連]

2018年4月、大連理工大学・立命館大学共同研究センター設立に関する協定を締結。

アメリカ [ワシントンD.C.]

2018年4月、アメリカン大学と共同で「アメリカン大学・立命館大学国際連携学科」を開設。海外大学との学部間ジョイント・ディグリープログラム開設は日本初。



アメリカ [ニューヨーク州]

2018年6月、立命館大学 立命館アジア・日本研究機構とコーネル大学マリオ・エイナウディ国際学センターと協力協定を締結。

Europe
117

Asia
218

North America
58

Central and South America
22

Others
3

海外拠点

- ・2010年7月 立命館英国事務所開設
- ・2010年11月 立命館インド・オフィス開設
- ・2017年9月 立命館大学北京事務所開設
- ・2018年3月 立命館大学ベトナム事務所開設

大学・研究機関との協定

世界 **67** 国・地域 **450** 大学・機関

(2018年5月1日 時点)

● = 海外協定校・機関の数

英国事務所

北京事務所

ベトナム事務所

インド・オフィス

インド
[ハイデラバード]

2014年2月、インド工科大学ハイデラバード校と私立大学で初の協力協定を締結。産学国際協働PBLプログラムを実施。

イタリア
[ピエモンテ州]

2016年3月、イタリア食科学大学と協力協定を締結。

エジプト
[アレキサンドリア]

2018年1月、エジプト日本科学技術大学 (Egypt-Japan University for Science and Technology "E-JUST") の職員を受け入れ、大学組織運営に関する研修を実施。

UAE [アブダビ]

2011年3月、アブダビ日本語教育プロジェクト開始。アブダビ首長国王立の科学技術系高等学校ATHS (Applied Technology High School) における日本語教育プログラムの監修と日本への短期留学を実施。

オーストラリア
[キャンベラ]

グローバル教養学部開設決定

2019年4月、立命館大学16番目の学部「グローバル教養学部」(以下、GLA)を開設いたします。GLAは、オーストラリア国立大学のCollege of Asia & the Pacific(アジア太平洋学群)が提供するアジア太平洋に関する学びと、立命館大学が展開するグローバル時代の教養(リベラル・アーツ)に関する学びの両方を、オーストラリア・日本の2つのキャンパスで修めます。国を越えて2つの大学の学位を取得できる「デュアル・ディグリープログラム」に、学部全体で取り組むことは日本初となります。



平素は立命館学園の教育研究に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

立命館は、皆様のご期待にお応えできる学園であり続けるために、児童・生徒・学生が新しい価値を創造できる人材に成長するための土台を提供し続けていきます。

また国際的通用性のある世界水準の教育と、特色ある研究拠点の創造に努め、日本・アジアそして世界の未来をつくる「立命館らしい」児童・生徒・学生を育てることで、教育機関としての役割を果たしてまいります。今後とも温かいご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

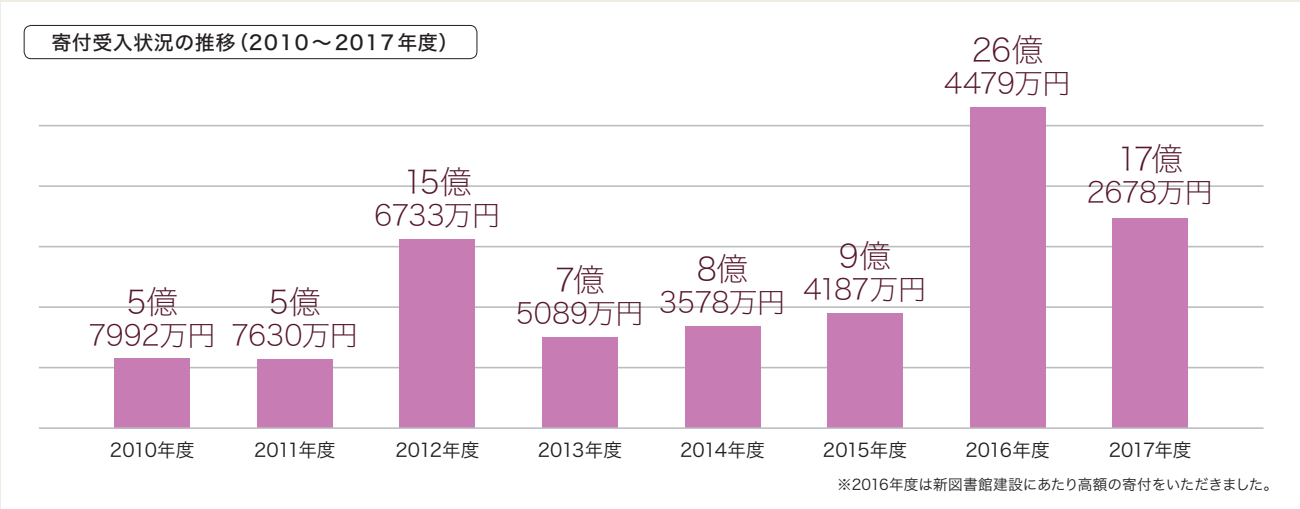
学校法人立命館 理事長

森島 朋三

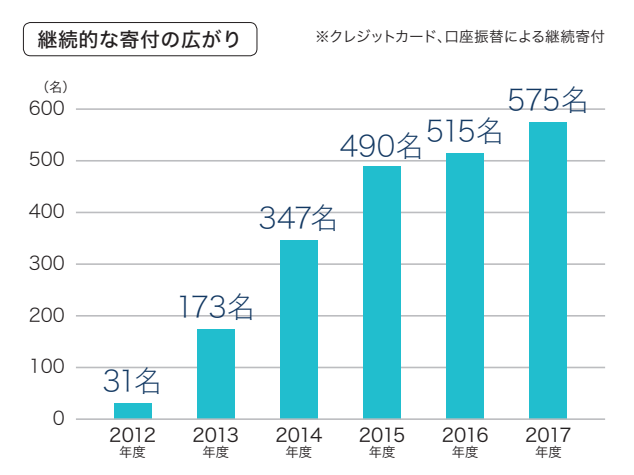
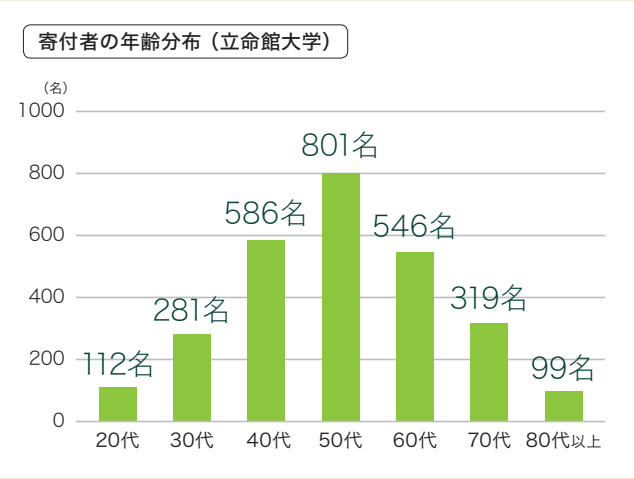
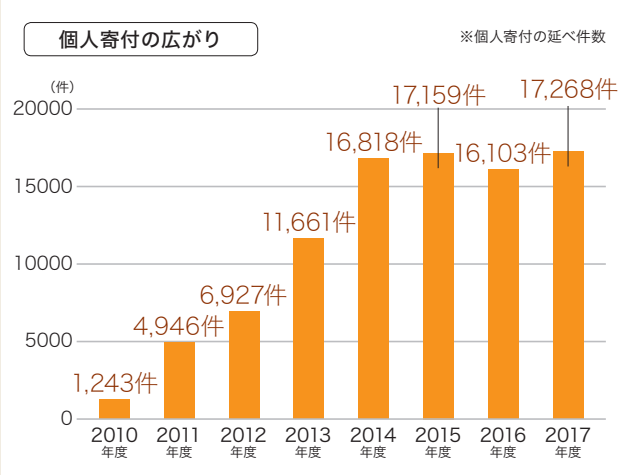
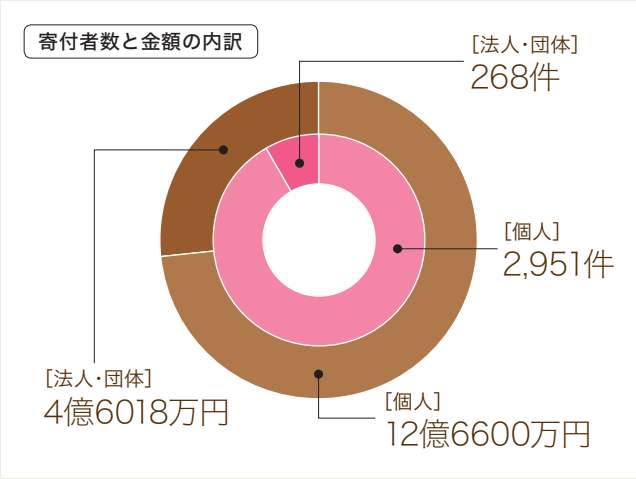
2017年度実績報告

皆様からいただきましたご支援についてご報告させていただきます。2017年度は総額17.2億円の温かいご支援を頂戴しました。

[寄付金額の推移]



[2017年度 寄付受入状況]



学生の活躍

■トライアスロン部

中山菜々美選手がアジア大会で優勝

5月6日(日)、香港にて行われた「2018 Hong Kong ASTC Triathlon Junior Asian Championships」において、トライアスロン部の中山菜々美選手(経営学部1回生)が優勝、ジュニアカテゴリー(19歳以下)でアジア女王に輝きました。



■ホッケー部(男子)

「第37回 全日本大学ホッケー王座決定戦・東西交流戦」で2連覇達成

7月1日(日)、大阪いばらきキャンパスOICフィールドにて、「第37回 全日本大学ホッケー王座決定戦・東西交流戦」が開催され、男女決勝戦・3位決定戦・男子東西交流戦が行われました。ホッケー部(男子)が見事優勝。昨年に続いて2連覇を達成しました。



■書道部

「第23回全日本高校・大学生書道展」創部初の日本一を獲得

7月12日(木)、大阪で開催された「第23回全日本高校・大学生書道展」に、書道部が出場し、大学の部で創部以来初となる「最優秀校(日本一)」に選ばれました。応募総数10,390点の作品の中から、本学学生の作品が大賞に3点(全53点)選ばれるなど、輝かしい成績を収めました。



■ソフトテニス部

梶尾明日香選手がインカレで優勝

8月7日(火)～11日(土・祝)、岡山県で開催された「全日本学生ソフトテニスシングルス選手権大会(インカレ)」において、ソフトテニス部の梶尾明日香選手(スポーツ健康科学部2回生)が優勝を果たしました。ソフトテニス部にとって、男女通じて初めての全国優勝となります。



■第18回アジア競技大会

アジア競技大会で立命館大学の学生が大活躍

8月18日(土)～9月2日(日)、インドネシアにて「第18回アジア競技大会(2018/ジャカルタ・パレンバン)」が開催され、日本代表として立命館大学の学生が大活躍しました。



写真提供：日本ホッケー協会
[ホッケー部]
渡辺晃大さん(経営学部4回生)



写真提供：月間陸上競技
[陸上競技部]
塩見綾乃さん(経済学部1回生)
800m 5位、4x400mR 5位



[ボート部]
高野晃帆さん
(スポーツ健康科学部3回生)
W2(舵手なしペア) 4位

■地域貢献活動

体育会が茨木市で地域貢献活動～学生1,100名が茨木市役所周辺を清掃～

8月2日(木)、体育会本部および体育会に所属する約50団体・1,100名の学生が大阪府茨木市の茨木市役所周辺の公園緑地で、清掃活動を行いました。2016年の京都駅周辺の清掃活動、2017年の滋賀県琵琶湖岸の外来生物「オオバナミズキンバイ」の一斉清掃活動に続く取り組みです。学生たちは、学校法人立命館が包括的連携交流協定を結んでいるアシックスジャパン株式会社様からご支援いただいたお揃いのTシャツを着用、約1時間、清掃作業に取り組みました。



新しい時代の高等教育・研究機関を目指す
「学園ビジョンR2030」を策定

7月27日(金)の理事会において、2030年に立命館学園が目指す将来像の実現に向けた中期経営計画の基本となる「学園ビジョンR2030」を策定しました。

R2030

挑戦をもっと自由に

Challenge **your** mind
Change **our** future

「挑戦をもっと自由に」を掲げ、異なる価値観を認め合い、摩擦を恐れず高め合い、これまでの限界を超えていく、あらゆる人の自由な挑戦が希望に満ちた未来につながる社会を目指して挑戦を続けていきます。

学園ビジョンR2030 概念図

学園ビジョンR2030の学園像・人間像

立命館学園は、「学園ビジョンR2030」に基づき、児童、生徒、学生はもとより、教職員、校友に至るまで、個々人がそれぞれの立場から社会のあり方を考え、平和な社会の実現に向けて果敢に、自由に挑戦する人々が集う学園創造を進めるために、以下の学園像と人間像を設定します。

学園像

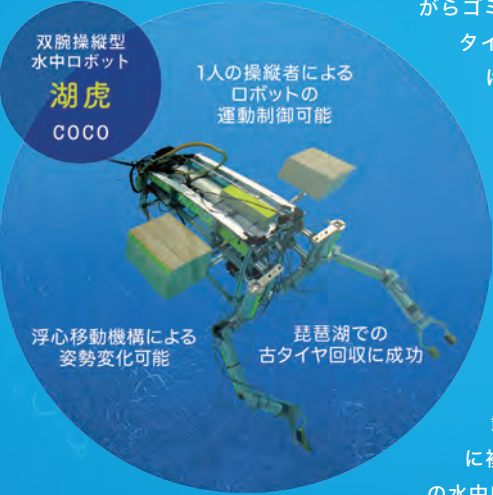
- ▶ **学び続ける社会の拠点としての学園**
自らのライフステージに合わせて、必要なことをいつでも、自分に適した形で学び、新たな挑戦の力を育むことのできる「人生の寄港(校)地」としての学園
- ▶ **人類社会における様々な課題に挑む学園**
世の中の様々なレベルや規模で存在する課題を見出し、その解決に挑戦する学園
- ▶ **ダイバーシティ&インクルージョンを実現する学園**
個人、組織、地域、国、宗教、風習、文化、世代をはじめとする社会のあらゆる多様性を前提とし、個人の意見や考え方の違いを理解・尊重し、他者と協働しながら多様な「つながり」を育む学園

人間像

- ▶ **チャレンジ精神に満ちた人間**
摩擦や失敗を恐れず、困難を粘り強く果敢に乗り越える強い意志と逞しさを備えた人
- ▶ **社会の変化に対応し、自ら考え、行動する人間**
社会の変化をつかみ、様々な課題を認識する洞察力を有し、課題解決への一歩を踏み出す人
- ▶ **グローバル・シチズンシップを備えた人間**
自分がグローバル社会の一員であることを自覚し、他者の立場と意見を尊重し、調和のとれた解を導き出すことにより、多文化共生社会の実現に挑戦する人

琵琶湖の環境を守る番人は水中ロボット

日本最大の湖・琵琶湖。約400万年前から同じ姿を留める古湖であり、今なお豊かな生態系を維持する世界でも稀有な湖の環境保全や調査に今、水中ロボットが活躍している。川村貞夫らが開発した「湖虎(COCO)」は2本のアームで水中の物をつかむことのできる水中ロボットだ。重さ55kgの小型・軽量のボディで50mの深さに潜り、カメラや加速度センサで水中を撮影・計測しながらゴミ拾いなどを行う。廃タイヤを湖底から引き上げた実績もある。



水圧や浮力、水流などの影響を受ける水中でロボットを動かすのは、陸上とは比べものにならないほど難しい。ロボットアームなどの自由度の高い付属物を搭載すると制御はさらに複雑になる。浮遊状態の水中ロボットではロボットアームを適切な位置に持っていくことも困難な上、足場のない水中で物を持つとその重量でバランスを崩し、ロボットもろとも沈んでしまう。川村は世界にも例のない独立型の浮心移動機構を開発し、そうした課題を解決してみた。2つの発泡ウレタンのフロート(浮き)とスクリューでロボット本体の姿勢を保持しながら、ピッチ角とロール角を制御する仕組みで水中の物体にうまく姿勢を合わせることに成功した。

コンピュータによる制御技術とメカニカルな機構開発の両方に秀でているところが川村の強みだ。「ロボットはセンサやアクチュエータ、コンピュータなどシステムとしての統合体です。システム統合の視点で考えなければ高い性能は望めません」と川村は言う。とはいえ水環境の影響は予測不可能でコンピュータによるシミュレーションも十分ではなく、機構と制御を統合させるのは簡単ではない。それを可能にすることで川村は従来にない小型で高性能な水中ロボットを次々と実現してきた。

「水中ロボットそのものの性能に加えて重視しているのは、操縦のしやすさです」と続けた川村。訓練を積んだ専門家しか使えなければ、どんなに高

性能な水中ロボットも宝の持ち腐れになってしまう。複雑な制御機構を持つロボットアームの操作もジョイスティック一つでコントロールできるよう川村は最初からハンドリングを考慮に入れてシステム設計を行っている。

ココの進化形である「有手海(アルテミ)」はさらに軽量の30kg。ココより数段機敏に動けるようになった上、先端に取り付けたアームで物をつかんだり、組み立てることもできる。カメラと150mの長さのケーブルによる通信で水上の操縦者に水中の様子を伝えることで、水中で細長いパイプを差し込むといった複雑な作業も可能になった。

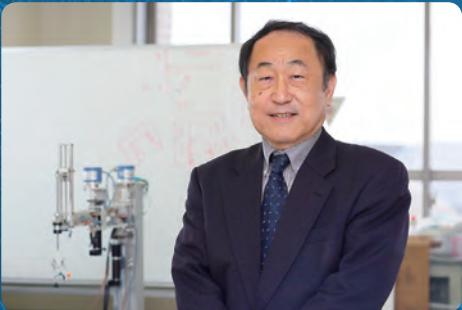
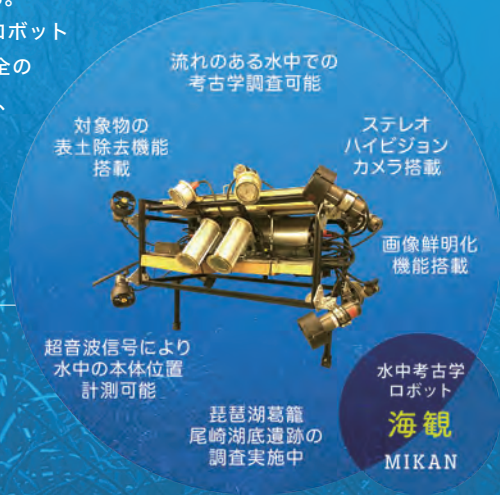
ハンドリング可能な水中ロボットはそれまで深海探査などで用いられる大がかりなものがほとんどだった。「水深3000m以上まで潜るためにロボットの重さは数百kgから1トン単位。開発には数百億円かかる場合もあり、1回調査に赴くだけで、数千万円から億単位の費用がかかります。これでは到底身近な環境保全や調査に簡単に使うことはできません」。

川村が徹底して小型化と軽量化、使いやすさを追求するのは、ニーズの高さに比べてそうした水中ロボットがあまりに少ないからだ。「開発が難しく研究開発者が少ないため、技術の発展も人材の育成も進まない。そんな悪循環を断ち切りたい」と敢えて険しい道を行く覚悟を語る。

ココやアルテミといった環境保全に役立つ水中ロボットの他に、川村は琵琶湖の環境や考古学の調査に用いるロボットの開発を進めている。湖底に1m程度の細長いシリンダーを突き刺し、数百年単位で積もった泥層を採取するための水中ロボットが「海剣(ミツルギ)」だ。水流の影響を最小限に抑え、効率的に方向転換や移動を行うために、可変形状機構やスラスト(プロペラ)配置に工夫を凝らしている。

また「海観(ミカン)」は琵琶湖底に眠る葛籠尾崎(つづらおさぎ)湖底遺跡を調査するために開発された。GPSの届かない水深70mまで潜り、3次元で物体を捉えるハイビジョンカメラと超音波信号で湖底の土器を探索する。水の流れの激しい場所も進めるよう8個のスラストが取り付けられ、また砂に埋もれた土器を傷つけないよう水流で表土を吹き飛ばす機能も搭載されている。

川村の開発した水中ロボットが今後琵琶湖の環境保全の一翼を担うだけでなく、地球や人類の足跡を明らかにする歴史的な発見を後押しするかもしれない。



立命館大学 理工学部
川村 貞夫 教授

1956年大阪生まれ。日本ロボット学会会長、日本学術会議連携会員などを歴任。研究テーマは水中作業を目的としたロボット開発、ソフトロボットの設計と製作、次世代産業用ロボット開発。